

【病院又は診療所】

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	西条中央病院	西条昭和町12番40号	病院	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.10 Is/Is0=0.18 CTU・SD=0.26	建替	工事中 平成30年度竣工予定	耐震診断の結果(詳細) Is0=0.54 X方向 PH2階 Is=4.56,CTU・SD=4.82 PH1階 Is=1.28,CTU・SD=1.35 5階 Is=0.83, CTU・SD=0.88 4階 Is=0.55, CTU・SD=0.58 3階 Is=0.43, CTU・SD=0.45 2階 Is=0.43, CTU・SD=0.46 1階 Is=0.22, CTU・SD=0.29 Y方向 PH2階 Is=2.99,CTU・SD=3.14 PH1階 Is=1.04,CTU・SD=0.97 5階 Is=1.28, CTU・SD=1.35 4階 Is=0.76, CTU・SD=0.81 3階 Is=0.32, CTU・SD=0.34 2階 Is=0.10, CTU・SD=0.26 1階 Is=0.19, CTU・SD=0.41
	旧館棟							
	新館棟							
				別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第3次診断法」(2009年版):鉄骨が充腹材の場合	Is=0.30 Is/Is0=0.56 CTU・SD=0.23	建替	工事中 平成30年度竣工予定	耐震診断の結果(詳細) Is0=0.53 X方向 PH2階 Is=0.35,CTU・SD=0.29 PH1階 Is=0.35,CTU・SD=0.29 10階 Is=0.30, CTU・SD=0.23 9階 Is=0.43, CTU・SD=0.35 8階 Is=0.43, CTU・SD=0.35 7階 Is=0.43, CTU・SD=0.35 6階 Is=0.36, CTU・SD=0.30 5階 Is=0.43, CTU・SD=0.35 4階 Is=0.43, CTU・SD=0.35 3階 Is=0.43, CTU・SD=0.35 2階 Is=0.43, CTU・SD=0.35 1階 Is=0.41, CTU・SD=0.34 Y方向 PH2階 Is=0.84,CTU・SD=0.68 PH1階 Is=0.45,CTU・SD=0.37 10階 Is=0.68, CTU・SD=0.55 9階 Is=0.60, CTU・SD=0.49 8階 Is=0.68, CTU・SD=0.55 7階 Is=0.66, CTU・SD=0.55 6階 Is=0.61, CTU・SD=0.50 5階 Is=0.58, CTU・SD=0.48 4階 Is=0.61, CTU・SD=0.50 3階 Is=0.68, CTU・SD=0.55 2階 Is=0.57, CTU・SD=0.47 1階 Is=0.55, CTU・SD=0.45

附表 耐震診断の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価(抜粋)

別表2

耐震診断の方法		構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性			
		I (地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。)	II (地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。)	III (地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。)	
(5-3)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$	
(5-6)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2009年版)	鉄骨が充腹材の場合	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.125 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.25 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$
	鉄骨が非充腹材の場合	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.14 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$	

※別表1. 2の構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性については震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。

いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生じる恐れは少なく、倒壊するおそれはない。

※別表2に掲げる耐震診断の方法のうち、(4-1)から(5-6)、(11)(12)の方法における安全性の区分については、補正係数(表中のU及び I_{so} を算出する際に用いるU)を1.0とした場合を示している。

※特記無き限り、地域係数 $Z=0.9$ 、補正係数 $G=1.0$ 、 $U=1.0$ として耐震診断されています。